

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192200038		
法人名	株式会社 名水		
事業所名	グループホームしらかば		
所在地	北海道虻田郡京極町字川西101-12		
自己評価作成日	令和5年4月19日	評価結果市町村受理日	令和5年5月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jigyosyoCd=0192200038-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jigyosyoCd=0192200038-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和5年4月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節のレクリエーションを積極的に企画し、入居者の方が快適な生活が送れるように支援をしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームしらかばは、羊蹄山を望む白樺の林に建つ1ユニットのグループホームです。入居者は、明るい居間で穏やかな時間を過ごしています。落ち着いた環境の中、計画作成を担当する2名のケアマネが在籍し、利用者の身体状況に合わせた介護計画を立案し、リハビリや利用者ごとの希望に沿った生活の実現に努めています。職員は、利用者の尊重などについて学び、虐待と身体拘束の禁止について研修を受けています。コロナ禍のため、外部との交流が制限されていましたが、今後は身近な町内会行事への参加などを含め、利用者の外部との接点を増やしていくことを予定しています。
---

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	● 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	● 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	● 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	● 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	● 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	● 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	● 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	● 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	● 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	● 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	● 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	● 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	● 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を理解し、共有しながら日々実践に努めるよう努力している。	理念を事務所に掲示しています。コロナ禍でもできる限り地域交流を心がけ、利用者が毎日新聞やチラシを見ており、ニュースや地域の情報を得ています。通院の際に買い物に出かけ、チラシに出ていたお買い得品や好きなものを購入しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナ禍で地域との交流はできなかった。	コロナ禍のため、地域の催し物が開催されなかったり、参加できない時期が続いています。令和5年から町内会行事が再開される予定となっており、利用者とともに地域のパーベキューなどに参加する予定となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度はコロナ禍で地域との接点をとることができなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を定期的に開催することができなかったが、町内会・役場・社会福祉協議会・民生委員の方に理解していただいている。	令和4年度は、運営推進会議を集合形式で3回開催しました。コロナ禍のため、予定していた時期に開催できないこともありましたが、今後は事業所のイベントと同日に行うことで、利用者の様子を見てもらい、意見が出やすい工夫を行っていく予定です。	集合して行うことが難しい場合でも書面会議を行うなど、事業所の運営について情報提供や運営への意見を得られるよう、定期的な開催のための工夫をしていくことが望まれます。運営推進会議には家族等の参加を促し、議事録を発送することを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場やふるさとネットワークで情報やアドバイスをいただきながら取り組んでいる。	事業所の2階の活用なども含め、役場からの問い合わせがありました。町役場や社協にはグループホームの空き状況などの現状を伝えています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを職員全体が理解し日々取り組んでいる。(玄関は夜間のみ施錠)	事業所として、身体拘束廃止に関する指針を定めています。身体拘束適正化委員会は令和4年度に4回開催しました。また、内部研修を行い、職員の身体拘束適正化に向けた理解を深めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設長やケアマネジャーが虐待防止への見本となり、日々防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者の方がいるため、必要に応じて話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の不安や疑問を聞き十分な説明を行い、理解・納得を得た上で書面での契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族の意見や要望を話し出せる機会や環境づくりに取り組んでいる。	事業所だよりを家族に送付し、利用者の日常を伝え、家族が運営に関する意見を表出しやすいようにしています。また、職員から問い合わせを行い、利用者の意見や要望を聞いています。得られた意見や要望に応えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に話し合いをし、会議での職員の意見や提案を聞き反映できるよう努めている。	職員を余裕をもって配置することが難しい状況が続いていますが、施設長は日々の支援の中で、職員の意見を聞くように努めています。行事などの開催について、職員からの意見を取り入れています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況を把握し、職場の環境や整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度はコロナ禍で研修を受ける機会がなかった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	今年度はコロナ禍で勉強会等に参加する機会がなかった。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の際に情報収集・共有し要望を聞き入れ安心していただけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見に耳を傾け、要望や意見を聞き入れ良い関係づくりができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・家族が必要としているサービスを認識し、素早く対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念を基本姿勢を基に共に共感しあう関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度はコロナ禍で家族との交流ができずらい環境だった。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度はコロナ禍でなじみの場所には行けなかった。	感染症流行の鎮静化に伴い、感染予防をしながら外部との交流を徐々に復活しています。利用者の町内での買い物や通院の際に、入居前からの馴染みの人と交流する機会が増えています。	
21		○利用者同士の関係の支援利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が生活していく中でコミュニケーションがとれるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の家族から退所後の相談を受け対応を行った。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の意向を聞き入れ、サービスを提供できるよう努めている。	自分で意思を表明できる利用者が多く、日常的な会話の中で把握した意向は職員が共有しています。また、利用者の思いや意向について、職員から積極的に問いかけを行い、満足度についても聴取しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・家族からの情報を収集・把握しサービスに活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日々の心身状態を観察し、それができよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝のミーティング等で情報を共有している。	計画担当者は業務日誌や職員からの情報を通じて、利用者の情報を収集しモニタリングを行っています。2名の介護支援専門員資格者が共同で介護計画を策定しています。計画案を家族に送付しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の必要性を理解し、介護記録の見直しに活かしている。日々の状態を記録し、毎朝のミーティング等で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年度はコロナ禍で家族の訪問や外出等が柔軟に行えなかった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度はコロナ禍で近隣との交流や町内会の集まりに参加することができなかった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診の他に訪問看護時相談や訴えがあれば随時病院受診を行っている。	利用者は入居前からのかかりつけ医を受診しています。また、受診の際には職員が同行し、日々の状況を医師に伝えています。日々の健康管理は訪問看護を中心に行っています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護を行い、個々の状態を報告し適切な指示をもらい必要があれば受診している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療関係者との情報共有や相談をし、関係づくりに取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に関する指針をご本人や家族に示し同意を頂いている。(関係医療機関と共に支援できるよう取り組んでいる。)	重度化に関する指針を定め、入居時や状態に変化があった場合に説明し、同意を得ています。また、見取りに関しては、地域医療の実情を踏まえ、対応が難しいことを伝えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網やマニュアルを作成し、緊急時に対応できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成し、緊急時に対応できるよう努めている。	年2回の避難訓練を行いました。事業所はハザードマップ上で大きな災害の発生確率が低いことを確認し、食料の備蓄や停電への備えを行っています。	地震や雪害などを含めた自然災害の想定を行い訓練を行うとともに、BCP(事業継続計画)の策定を期待します。
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりをよく理解し、自尊心を傷つけない対応をするよう努めている。	利用者一人ひとりの個性を大切にしています。排泄の失敗時などに、他の利用者にわからないように誘導するなど、利用者の尊厳自尊心を損なうような声掛けを行わないよう努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や、思いを表現できるような関係づくりに努め、自己決定できるような問いかけや声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	共同生活の上での時間の取り決めはあるが、強制はせず臨機応変に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設内でのおしゃれが楽しめるよう支援を行った。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の希望に対し見守りにて利用者主体で調理する機会があり、食後は職員と一緒に片付けを行っている。	利用者のリクエストを多く取り入れています。山菜など、季節の食材を取り入れ、季節感を感じられる工夫をしています。また、山菜の下ごしらえなどは、入居者と協力して一緒に行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事や水分補給ができるよう心掛け食事の順番等個々の状態に合わせるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアに努め、できないところは介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間を見たトイレの声掛けや気持ちよく排泄していただけるようご本人の自尊心を傷つけないよう取り組んでいる。	利用者ごとに時間になったらトイレへ誘導しています。拒否があった場合は無理強いしないなど、利用者が自然に気持ちよく排泄できるように工夫しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を把握し、食物の摂取に気を付け体操を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	自立度の高い利用者には見守りを行い、個々の状態に応じた支援を行っている。	週2回の入浴を基本としています。入浴の時間や順番、温度などは利用者の意向を反映しています。入浴時間の管理が難しい利用者には、利用者の好きな飲料を風呂上りに用意するなど、利用者が気持ちよく入浴できる環境づくりに努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にいられない利用者はリビングで休んでいただいている。居室にいる際は静かな環境で休息していただけるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で薬に変更があった場合にはノート・業務日誌等で情報共有を行っている。状態に変化があった場合には訪問看護や受診時に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コミュニケーションをとりながら日々の生活の中で楽しみを見つけ出し気分転換ができるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナ禍で外出がままならなかった。	利用者は、自分でお金を管理できる場合は小遣いを持って買い物に出かけています。感染症の鎮静化に伴い、通院の際や、花を見に出かけたり、買い物などで日常的に外出する機会が増えています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方には本人持ちの財布や、金銭管理をいただいている。できない方は家族の意向を聞くがなるべくご本人の希望を優先し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で面会ができない利用者には電話の他にリモートでの対応を行っている。耳が遠い方場合は職員が間に入り支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節行事の飾りつけは過剰にならないよう心地良い空間になるよう努めている。	共用空間には季節感を感じられるように利用者が作った飾りを飾ったりしています。居間ではパズルを作ったり、正月の繭玉作りや、山菜の皮むきなど、皆で作業を行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士での居室の行き来があり、職員が見守りできる死角の空間づくりに工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべくご本人の慣れ親しんだ家具等を持ってきていただくよう家族にお願いしている。環境が変わっても安心して過ごしていただけるよう支援している。	使い慣れた物や家族の写真など、利用者が安心して過ごす環境づくりに努めています。家具の配置については、固定を行うなど防災の観点から、職員の意見を取り入れています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	花や畑の手入れ・カーテン開閉・日めくりカレンダーを設置し、めくっていただく等一人ひとり出来る事を活かせる支援をしている。		